

# 二少年の話

小川未明

青空文庫



達ちゃんたつの組くみに、田舎いなかから転校てんこうしてきた、秀ちゃんひでという少年しょうねんがありました。住すんでいるお家うちも同じ方ほう向こうだったので、よく二人ふたりは、いつしよに学校がっこうへいたり、帰かえつたりしたのであります。

ある日ひのこと、達ちゃんたつは、夕飯ゆうはんのときになにか思おもい出だしてくすくすと笑わらいました。

「なにか、おかしいことがあったの。」と、お姉さんねえがおつしやいました。

「きよう、秀公ひでこうといつしよに帰かえったら、鳥屋とりやの前まえで、いろいろの鳥とりが鳴ないているのを見みて、ああ、うそが、琴ことを弾だんじているといつたんだよ。」と話はなしました。

「うそつてなあに？」と、お姉さんねえがたずねられました。

「姉さんねえは、まだ、うそという鳥とりを知らしないのかい。べにがらのように赤あかくて、もつと大おおきい鳥とりなんだよ。じゃ、姉さんねえは、文鳥ぶんちょうを知しっているだろう。ちようど、あんなような鳥とりなのさ。」と、達ちゃんたつは、いいました。すると、こんど、お兄さんにいが、

「うそなら、寒さむい方ほうにいる鳥とりだ。そして、それがどうしたというんだい。」と、きかれました。

「秀公ひでこうが、小ちいさいとき、おばあさんちいから、昔むかし話はなしをきいたんだつて。昔むかしあるお姫ひめさま

が、悪者のためにさらわれていつて、沖の島で、一生独りさびしく琴を弾じて送ると、死んでから、その魂がうそになったというのだよ。それで、うそがさえずっていたので、秀公が、琴を弾じているといったんだそうだ。僕、なんのこともわからなかつたのさ。」

達ちゃんが、思い出して笑うと、姉さんもその意味がわかつて、笑われたのでした。

「だが、おもしろいお話じゃないか。」と、兄さんは、いわれました。

「また、秀公の生まれた村から、日本海は近いんだつて。海へいく道端に、春になると桜が咲いて、それはきれいだといつていたよ。」

「春は、田舎がいいだろうからな。」

「秀公は、やはり田舎がいいといつていた。」

「秀ちゃんて、どんな子？」

「できないので、先生にしかられてばかりいるのさ。」

「こういうと、お姉さんは、達ちゃんをにらみました。」

「自分だつて、できないくせに、ひとのことを悪くいうもんでないわ。」

これをきいて、お父さんも、お母さんも、お兄さんも、みんながお笑いになりました。

その、あくる日の、晩ご飯のときでありました。いつものように、みんなは、めいめい

きまつた場所にすわつて、食事をしましたが、すんでしまうと、またいろいろお話が出たのであります。

「秀公は、どうしたい。」と、お兄さんが、思い出して、おききになりました。達ちゃん、片手にはしを握つて、目をかがやかしながら、

「秀公のやつ、また、きよう先生にしかられて、おかしかつたよ。」

「よくしかられるのね。」

「田舎の学校のほうが、しかられなくて、よっぽどいいと聞いていた。」

「どうして、しかられたの。」と、お姉さんが、たずねました。

「運動場のもちのきを折つて、もちを造るのだと聞いて、石の上で、コツ、コツたたいてるところを、先生に見つかったのだ。そして、この寒いのに、三十分も立たされたんだよ。」

「こういうと、お兄さんは、考えていられましたが、

「広々とした、田舎で自由に育つたものから見たら、この都会は、せせつこましいところにはちがいない。」といわれたのです。

「こんど秀公が、うちへ遊びにくるつて。」

これを、おききになつて、お母さんが、

「だれとでも仲よくしななければ、いけませんよ。」と、おつしやいました。

「達ちゃんは、ひとのことばかりというが、自分だつて、しかられることがあるのでしょうか。」と、お姉さんが、いわれました。

「だれが、しかられなんかするものか。」と、達ちゃんは、耳のあたりを赤くしたのである日のこと、秀ちゃんが、達ちゃんの家へ遊びにきました。ちようどお姉さんも、家にいらつしやいました。

達ちゃんと、いつしよにへやへはいつてきた秀ちゃんは、

「こんにちは。」と、快活に、お姉さんにむかつて、丁寧にあいさつをしました。

一目見て、元気そうな、目のくりくりした子供でしたから、お姉さんも笑つて、

「いらつしやい。」と、あいさつをなさいました。

秀ちゃんは、はじめてのお家へきたので、かしこまっていますでしたが、だんだん慣れると、さつぱりとした性質ですから、話しかけられれば、はきはき、ものをいいますので、すぐにもんなどうちとけてしまいました。

いろいろな話をしていけるうち、ふいに、

「うちの達ちゃん、学校で、先生にしかられたことがあったでしょう。」と、お姉さんは、秀ちゃんにおききになったのです。そして、なんとというか、秀ちゃんの顔をごらんになりました。

「はきはき話をしていて秀ちゃんは、急に口をつぐんで、両方のほおを紅くしながら、達ちゃんの顔を見ました。そして、笑って、さすがにだまっていました。」

「ねえ、しかられたことがあるでしょう。」と、お姉さんは、顔をのぞくようにして、おききになりました。

「おい、秀公、だまっている。」と、達ちゃんは、おどすような剣幕をして、いいました。

「達ちゃん、そんなことをいうのは、卑怯ですよ。」と、お姉さんは、達ちゃんをたしなめなさいました。

じつは、今日、学校で、達ちゃんは先生にしかられたのでした。それは時間中に、砂場で採取してきた砂鉄を紙の上のせて、磁石で紙の裏を摩擦しながら、砂をぴよんぴよんとおどらせていたのを、先生に見つかってからです。もし、このことを秀ちゃんが、お姉さんに話したら、お姉さんが、家じゅうの人に話して、たいへんだと思つたか

らでしよう。

「ねえ、秀ちゃん、正直におつしやいよ。」と、お姉さんは、おききになりました。

元来、なんでもきかれれば、知っていることは、きはきと話す性質の秀ちゃんです。すから、いまにも、そのことが、口からもれやしないかと達ちゃんは、気が気でなかったのでした。

「しかられたことはないけれど、笑われたことがあった。」と、秀ちゃんが、いいました。それは、秀ちゃんの口もとを見つめていた、達ちゃんにも意外にきこえました。

「まあ、笑われたって、どんなことがあったの。」と、お姉さんは、はやくききたかったのでした。

「栗鼠のことを、くりねずみといったんで、みんなが笑ったんだ。」と、秀ちゃんが、答えたので、お姉さんも、吹き出して、

「達ちゃん、おまえ、くりねずみといったの？」と、お笑いになりました。

達ちゃんは、秀公が、どんな自分の困ることをいいだすだろうと、内心びくびくしていたのですが、なにこれくらいのことなら、そう恥ずかしくないと安心したのでした。そして秀公の、やさしいのに感心し、またありがたくも感じたのであります。



お姉さんは、達ちやんが、どんなことを思っているかわからないものだから、

「そんなことまちがって、どうするの。遊んでばかりいて、勉強をしないからですよ。」といわれました。

「知っていたんだけど、ただ、ちよつとまちがったただけなんだよ。」と、達ちやんは、口ではこんな負け惜しみをいいましたけれど、学校でみんなが笑った、あのときのことを思い出すと、きまりが悪くなりました。

秀ちやんは、いつまでも、そんなことを思っていないませんでした。

「君、なにか、おもしろい雑誌がない？」と、秀ちやんが、いいました。

「あるよ。」と答えて、達ちやんはこれをいい機会に立ち上がりました。そして、いろいろの本や、雑誌を出してきて見せました。二人は、それからおもしろく遊んだのであります。

その夜、お姉さんは、秀ちやんからきいた話をなされたので、みんなが笑いました。「達ちやんは、自分が笑われたことをちつとも話さないのね。」

こうお母さんが、おつしやると、達ちやんはなんとも返事ができませんでした。そして、心の中で、秀公がよく、自分が砂鉄でいたずらをしてしかられたことをだまっています。

れたと、いくたびも感謝かんしやして、これから、自分じぶんもひとのことをいわないようにしようと  
おも  
思おもいました。

# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

※表題は底本では、「二一少年《しようねん》の話《はなし》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2011年12月1日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 二少年の話

小川未明

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>